

リスクコミュニケーション・フォーラム参加者からの意見・質問の概要

区分	意見・質問の概要
<p>リスクコミュニケーションガイドライン(案)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● リスクコミュニケーションは、工事発注者の義務と定めるほうが良いと思う。 ● 適切な事前調査を担保するため、事前調査を行う者の能力をガイドラインにある表現よりもさらに具体的にすることはできないか。座学のみで取得できる石綿作業主任者と国交省創設の調査専門の資格である建築物石綿含有建材調査者が同レベルとみなせるか疑問。 ● 小規模の改修工事(レベル 3)など、リスクコミュニケーションの対象範囲は狭くなるのではないか。小規模改修工事等に関する対応策も追記してほしい。 ● 解体業者に対し、どのように石綿の危険性についての住民等へ周知させ、飛散防止対策を講じさせるかの項目を追加してほしい。 ● 「石綿がない」と嘘をつくような事業者に対して、ガイドラインで規制ができるのか。 ● ガイドラインに従わなかった工事発注者、行政に対して、強制力・実行性のあるものにするにはどうすべきか。 ● ガイドラインの対象者が工事発注者となっているが、内容はどうみても受注者がやるのが前提となっている。工事発注者にする意味はあるのか。 ● 専門知識のない工事発注者へのフォロー等が必要かと思うが、具体的な対策はあるか。 ● リスクコミュニケーションの対象範囲を設定する時に参考となるような、石綿飛散リスクの範囲等のデータはあるか。 ● 住宅レベルの解体では、調査結果の掲示以上の対応の周知範囲等の目安がないと、実施は困難。レベル 3 の解体であれば敷地境界付近では飛散が確認されないという調査結果があるが、それ以上に周知等が必要なのか。 ● リスクの定量化が必要ならば、ガイドラインに定量化の方法を載せるべきではないか。 ● リスコミガイドライン(案)にファシリテーターの必要性は記載されているか。また、ファシリテーターの選定方法を教えてほしい。 ● 他の公的指針等との重複についてどのように考えているか。 ● リスコミガイドライン(案)には、住民の知るべき項目、住民の権利等について、また、工事説明会の重要性、協定書の重要性についての記載がない。 ● やはり説明会を開いて専門家や自治会などが参加して行うことが必要。説明会を開く方向で条例とか通知等で改善できないか。 ● リスコミガイドライン策定に、住民や被害者の代表を参加させるべき。 ● リスコミガイドライン(案)には、弱者である住民・作業員に対するリスクコミュニケーションの視点が盛り込まれていない。情報提供は業者が考えた内容を説明するだけになっている。住民がどのような内容を知る権利があるのということをきちんと書いてほしい。 ● 行政についてのガイドラインが必要。住民についてもお願いしたい。 ● リスコミガイドライン(案)の最後の「想定問答の例」で初めて事前調査の内容が示されている。事前調査の内容については、本編に書くべき。 ● リスクコミュニケーションの順番として、説明会を最初に持ってきて、必ず実施すべきこととすべきと考える。リスコミガイドラインを見た時に、あの順番

	<p>(説明会が最後)でやれば良いと誤解される可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none">● 情報提供の方法について、なるべく説明会を行うようにというものにしてほしい。説明会だといろいろな人の意見を聞くことができ、コミュニケーションが広がる。● 工事関係者のデメリットとしては、費用がかかることを挙げる必要がある。費用がかかってもやらなければならないことだということを示す必要がある。メリットだけという記載だと、やはり誤解を招く。● 石綿の危険性について説明できない。人間がもともと使っていたものに対して、どの程度まで危険性のリスクを受け入れるべきなのかをガイドラインに記載できないか。● 解体工事を行う場合に事前調査や説明会を行うことは当たり前だと思っていたが、全国的に見るとそうでないことが分かった。リスクガイドラインは大切だと思う。● コミュニケーションを取るための共通指針が必要と考える。● このガイドラインで本当に違法解体が減ると思っているのか。住民が健康に暮らすための権利などについて書かれたガイドラインこそ必要。● 作業員、住民を守るだけでなく、工事請負者を守る視点も必要。適正な請負者は、工事発注者と住民との板挟み。工事請負者が発注者から責めを負わされる実態は理解されていない。● 予め説明会や工事の挨拶時に新たな石綿が施工中に見つかった場合のお知らせ方法等の情報提供も欠かすことができないと思う。パニック予防の視点を望む。● 事故を起こさない、被害者を出さないためのリスクコミュニケーションのほうが大切ではないか。● すべてを話すことで逆に周辺住民を不安にさせることがないか。● 全ての解体工事にリスクコミュニケーションを課すのには疑問。事前調査の結果やリスクの大きさによって分けるべき。● リスクコミュニケーションの方法については、周辺環境や工事の規模などに応じた方法をとるべき。● 全ての工事で説明会の開催は困難。建物用途、規模、施工数量、施工難易度からリスクコミュニケーションを行う工事を選定し、定着化してきたら、全物件に対応するほうが良いと考える。● 個人所有の戸建住宅も対象としているが、現実的ではない。● 個人所有の倉庫等の場合、所有者自らが周辺住民に説明するとは考えられない。そのような対策はどうするのか。維持管理も含めたほうが良いのではないか。● 「住民をパートナー」という位置づけできちんと明記してほしい。● ファシリテーター(とりあえず行政)がリスクコミュニケーションの実施を調整できるようにすべき。● ガイドラインの対象に行政、住民も含めるべき。● 行政とのリスクコミュニケーションも位置づけを。● 危険性に対する尺度及び許容できるリスクの範囲を明確にしてほしい。● 第三者による事前調査、監視、完了検査の有効性についても記述するべき。● 石綿漏洩事故時の判断基準に「敷地境界で敷地境界 10 本/L」を使用しないように。● 説明会の義務づけを。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自治体の条例がばらばらで理解するのが大変。条例との関係を明確にしてほしい。 ● 1～3年スパンで見直し(公開で)をするべき。 ● 事業者(工事発注者や施工者)任せにせず、行政のほうで積極的に周知や指導等に関与すべき。 ● ガイドラインから外れた事案が生じた場合の対策が必要。 ● 工事発注者向けであれば、発信・周知方法を教えてほしい。 ● リスクコミュニケーションを実りあるものとするために具体的にどのような実施策を考えているか。 ● リスクガイドライン作成の必要性・運用方法について、国から各自治体へ説明・啓発する必要があると思う。 ● 「絵に描いた餅」のような文書にならないことを望む。
<p>石綿飛散防止対策に係るリスクコミュニケーション(一般)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常時の石綿含有塗料等の維持管理方法や周辺住民等への説明方法を知りたい。 ● リスクコミュニケーションを実施することによって、周辺住民の心配を逆におおってしまうことも考えられるのではないか。 ● リスクコミュニケーションを行う場合、リスク評価の基準が必要。石綿のように閾値がないものをどのように評価するのか。基準がないものに対するコミュニケーションは困難。 ● リスクの定量化は重要な情報・データとなるが、実際に起きた飛散事例に対してどの程度の信頼性をもっているのか。また、どのような方法で定量化を行うのか、基本的方法を記した文献・マニュアル等があれば教えてほしい。 ● 周辺住民との良好なリスクコミュニケーションには第三者の意見がとても重要。 ● 解体工事でのリスクコミュニケーションの費用感を教えてほしい。 ● 戸建住宅に関するリスクコミュニケーションや石綿解体工事の費用はどの程度か。行政はどの程度まで対応してくれるか。 ● ほとんど知識のない不特定多数の住民等に対し、過剰でも過少でもない石綿に関するリスク情報を提供することの難しさを感じた経験がある。この点は行政の役割も大きいと思う。 ● 安全なリスクコミュニケーションを一般に広め、法で定めてほしい。 ● 石綿の危険性を十分認識しているはずの行政担当者がなぜ分かるような嘘をついたのか。(講演会の内容に関する質問) ● リスクコミュニケーションという手法は法律で位置づけるべきだし、普通に行われるべき。 ● このようなコミュニケーションの場に、現場を数多く知っている住民等の当事者を入れてほしい。 ● ガイドラインに加えて、今後は様々なリスクコミュニケーションの取り組み事例を公表するなど、事業者等が取り組みやすいようにしてほしい。 ● ガイドラインではなく法文化してほしい。 ● 行政だけで解体等工事を監視することは難しい。情報公開によって住民のチェック能力を高めることが必要。説明会は石綿リスクに関心をもつ住民を拡大するチャンスでもある。 ● 大きな建物の場合、工事の日程、時間、振動、騒音、周辺の安全なども説明会で一緒に議論されることが多い。石綿の問題がいい加減にならないように、きちんと議題の一つに挙げておくべき。

	<ul style="list-style-type: none">● 一般環境下における患者数・発症者数を把握できれば、予算配分の強弱をつけられるのではないか。● リスクコミュニケーションを強くして工事の見える化を進めたら良いと思う。● 新たな石綿被害者を出さないリスクコミュニケーションについて検討していきたいと考える。
--	--